

青壮年期政策 暮らしに活かせる がん検診・生活習慣病 健診受診を目指して

平成18年度の生活習慣病健診の受診者は全体では8400人の人が受けています。その中身を分析してみると、異常なしの人が10%程度しかない状況です。保健師や栄養士はそれ以外の要指導、要医療の人たちに対して面接や訪問などを通して生活習慣改善に向けて働きかけていきます。

メタボリックシンドロームに 着目した健診結果の分析

健診データをもう少し詳しく分析してみたのが図3です。メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる人の割合は全国平均ほど多くはありませんが、40〜74歳の男性の4人に1人、女性は全国と同等の5人に1人の割合です。メタボリックシンドロームになると内臓脂肪から分泌される悪い物質が増えて、血管の炎症や血栓を作りやすい状態を起こして動脈硬化が進みやすくなり、心筋梗塞や脳梗塞の危険性を格段に高めるといわれています。実際に動脈硬化を起こし、心臓のバイパス手術やステント手術、腹部大動脈を人工血管に取り替える手術を受けることで命が救われた人たちがたくさんいます。

生活習慣改善につながる 相談体制

健康づくり推進課では市民の皆さんがそうならないために、健診結果を見ながらご自分の生活習慣を見直してもらおうと

メタボリックシンドロームと思われる人たち一人一人に面談して、生活習慣改善のお手伝いをしています。もちろん保健師、栄養士が面談で説明してもなかなか生活習慣は変わるものではありません。自分の体の中で起こっている状況がわかるように説明して、自分で「このまま放っておいたらまずい！どうにかしなければ」と気づいてもらえるように面談しています。そして次の年の健診で結果が改善していることを願って支援しています。

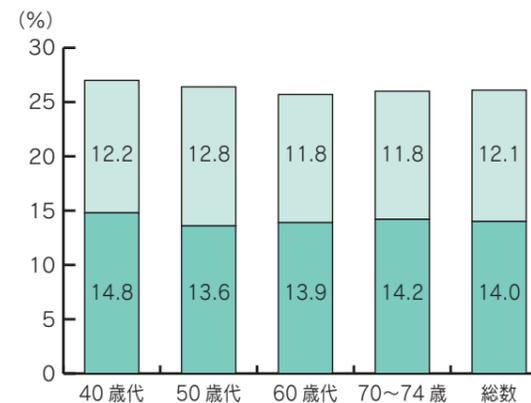
精密検査後の フォローアップに重点

また、もう一つの課題が精密検査の必要性が明らかにになった人へのフォローアップです。受診者の約半数の人に精密検査の必要があり、一人で複数箇所の精密検査の紹介状がでる場合もあるため、全体で6000件のフォローアップが必要という結果となりました。紹介状が付いたということは健診の結果で黄色信号がもったということと考えていただければいいと思います。これを青信号にするのが、赤信号にするのが受診行

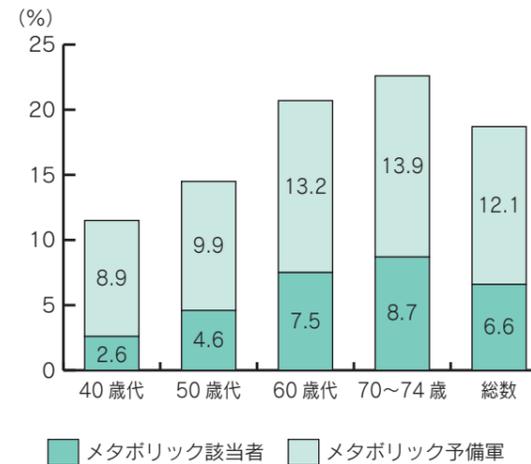
動にかかっています。例年精密検査の受診率は6〜7割ぐらいです。せっかく健診結果が良かったのに検査を受けないでいるのはもったいないと思いませんか。受診者から「あの時精密検査でがんが見つかりよかったです」という声を聞くこともあれば、「しまった」という声を聞くこともあります。

【問い合わせ先】
健康づくり推進課
成人保健係
☎32-7100

図3
メタボリックシンドロームの出現状況（男）



メタボリックシンドロームの出現状況（女）



乳幼児政策 健やかな子どもの成長と 安心した子育てへの支援

近年、少子高齢化、女性の就労の増加、さらには地球規模の環境問題など、子どもを取り巻く社会の状況は大きく変化しており、子どもを含む家族の健やかな生活に影響を与えることが懸念されます。宇城市では、年間約510人の子ども達が誕生しています。その子ども達や家族みんなが心身ともに健やかで、安心した子育てができるために、重点的に取り組んでいる事業についてお知らせします。

母親の心のケアの推進

子どもを生んだ後の母親がかりやすいのが「産後うつ」。ほぼ10人に一人の割合でうつ状態になるといわれています。

妊娠出産に伴う精神的な悩みや育児不安などに対応するため産婦人科など医療機関と連携をとりながら、保健師が家庭訪問や相談を行っています。また、二ヶ月児相談時に母親の心の状態を把握するためのアンケート

子どもの健康の確保および 増進

「乳幼児健診」

市では、乳幼児健診を宇城市保健福祉センター、不知火老人福祉センターにおいて集中的に実施しております。ご不便をおかけしてはいますが、専門医による健診や心理相談員を配置するなど体制の充実を図っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「年中児発達相談」

乳幼児期の障害や発達の遅れについては、子どもたちの成長過程に応じて、早期かつ適切な療育を行うことが大切です。

地域における子育て支援

市では各地域に79人の母子保健推進員がいます。

しかし、三歳児健診を最終とする現行の乳幼児健診システムでは軽度発達障害児を適切に発見することは困難です。保育園や幼稚園などで集団生活をするようになってから「落ち着きがない」「かんしゃくが多い」「言うことをきかない」などの相談が多くなります。そこで、年中児（4〜5才児）を対象に保育園・幼稚園などの協力を得ながら、保護者に発達相談希望調査票を配布し、心理士・心理相談員・保健師が相談に応じています。（保育園などからの相談にも応じています。）また、必要に応じて専門機関や療育事業を紹介しています。

その他、子どもの発達に対する不安や悩みなどに毎月2回心理士・心理相談員・言語聴覚士による相談も行っています。子育ての悩み一般に対しては保健師が随時対応していますのでお気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】
健康づくり推進課
母子保健係
☎32-7100

市民のみなさんの身近な場で家庭訪問を行い、乳幼児健診や相談、健康教育事業などへの参加の勧め、各種制度や保健事業の紹介など、妊娠中や母親などの良き聞き役・相談役を務めています。また、乳幼児健診・相談への協力や遊びマップの作成、子育て広場の開催など自主的な活動も行っています。今後も住民と市（保健師）とのよきパイプ役として活動を進めていきます。

妊娠・出産から産後にいたるまでの切れ目のない母親へのサポートをはじめ、子どもの健やかな成長のために乳幼児健診・相談、予防接種、家庭訪問などを通して子どもとその家族を支援していきたいと考えています。皆さまからのご意見をお待ちしています。